

## 紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 10

2010.03.19 (聞き手 高橋素子)

---

高橋 紅緑の滑稽俳句集の読み解きお蔭様で今回でめでたく10回目を迎える事が出来ました。

これまで面白楽しく、解説戴いた句を数えて見たのです。

そうしたら実に200句を超えているのですね。道理で私、最近少し賢くなったような気が・・・ふっふ！勿論最初は何も知らない真っ白な紙魚でしたから（笑い）

会長 知ってても知らないふりのお利巧さん  
魚種のひとつにカマトトなども

短歌になりましたが・・・

高橋 うわ～！素敵な短歌！  
会長は煽てもお上手ですね。（笑い）

でも錯覚してくださる方がいないとも限りませんので・・・（笑い）心苦しいですが、ここは、トトのままで！

では、本日は春の部の人事を前回の続きから始めさせて戴きますね。最初の季語は「水祝」ですよ。

「水祝」とは、嫁入りや婿入りまた新婚最初のお正月の神参りの帰りなどに、若者たちが新郎に水をかける風習。

みずあびせ、みずかけ等の意と広辞苑に説明してあります。仲の良い二人にそんな事をする気持ちも分る様な気がします。・ ・ （笑い）

☆ **門口やはいる處を水祝** 子規

☆ **水祝ひ少しはまじるそねみ哉** 紅緑

会長 ☆ **門口やはいる處を水祝** 子規

これはそのままわかりますね。

☆ **水祝ひ少しはまじるそねみ哉**

これもわかりますね。

洋風の結婚式でもフラワーシャワーなど「オシアワセ」などと口では言いつつ・ ・ 羨ましい・ ・

高橋 先日萬翠荘での三十年ぶりの結婚式に立ち会われたせいか本当に羨ましそう！（笑い）

次の季語は「藪入」。

これは誰でも知ってますね。

奉公人やお正月やお盆のこのお休みをどんなにか待ち望んでいたことでしょうね。

☆ **藪入の赤染衛門はなしける** 大江丸

赤染衛門とは和泉式部と並び称される平安中期の女流歌人のことですよ。

☆ **藪入の其日久松お染かな** 紅緑

油屋の娘お染と丁稚の久松の心中事件の話は浄瑠璃、歌舞伎に取り上げられて今でも人々の涙を誘っていますね。私もそのひとりですが・ ・

会長 赤染衛門というからには男性と書いていましたら女流歌人なんですね。

藪入の其日久松お染かな・・・これは、藪入りで丁稚が里帰りする日はお染と久松の心境になるということでしょうね

高橋 昔は恋もままならず・・・可哀想でしたね。

☆ 婆つれし爺も来にけり二の替 太祇

「二の替(かわり)」は顔見世狂言の次の替狂言のことでお正月に興行されたようですよ。

会長 普段は婆をつれては来ないのに・正月に興行だから・・・ということですね。  
この場合、他人ごとのように言って実は爺は作者自身のことではないでしょうか

高橋 えっ！太祇自身の事なのですか？  
次の季語は「二日灸」ですよ。  
一年の無病息災を願って、陰暦2月2日と8月2日にすえる灸の事ですね。数句詠まれてますよ。  
ご説明下さいね。

☆ 虚病してすえられにけり二日灸 鱸江

☆ 富士浅間二日やいと煙かな 虚子

☆ 呉竹のはやらぬ醫者や二日灸 虚子

☆ 堪へかねし鬼の涙や二日灸 笠雨

☆ 達磨には頭へやせん二日灸 紅緑

会長 ☆ 虚病してすえられにけり二日灸 鱸江  
虚病・・・仮病のことなんですね。  
二日灸を罰として据えられたというわけですね。

☆ 富士浅間二日やいと煙かな 虚子

灸を三角錐に盛り上げて富士山・浅間山と

見立てたわけですね。富士山の噴火は江戸時代までで 明治になってからは噴気だけです。浅間山は現在も噴火してますでしょ。

☆ **呉竹のはやらぬ醫者や二日灸** 虚子

呉れ竹は、中国の呉から渡来したとされる淡竹（はちく）の異名ですね。  
つまり竹藪・・  
藪医者・・という意味なんですね。  
虚子の可笑しい句のひとつです

☆ **堪へかねし鬼の涙や二日灸** 笠雨

普段は「鬼」という徒名を自他ともに許す涙を流すことなどありえない。  
そういう男も二日灸の熱さには涙するのでしょうか。

私の句に

★ **大男コガタアカイエカに悩む**

というのがあります。強い男が弱みをみせるそこに滑稽がありますね。

☆ **達磨には頭へやせん二日灸** 紅緑

達磨は頭頂部は大きく禿げています。  
達磨に灸を据えたとしたらアソコしかない。

高橋 成る程！達磨さんがいくら怒っても、手足がありませんものね。

次の季語は「初午」ですよ。

2月の初の午の日で、京の伏見稻荷大社の神が降りられたといわれ、全国で稲荷社をお祭りする日ですね。次の三句ご説明下さいね。

☆ **初午や狸むじなは隙で居** 白雲

☆ **初午や禰宜に化たる庄屋殿** 也有

☆ **初午や柳はみどり小豆飯** 也有

会長 ☆ **初午や狸むじなは隙で居** 白雲

初午は稲荷神社の祭りですから  
狐が主役です。狸むじなは 脇役と  
いうかステージの袖に引っ込んでいる  
ということですかね。

☆ **初午や禰宜に化たる庄屋殿** 也有

禰宜は神職の位階で 宮司の次の方です  
ね。権禰宜で禰宜でしたか・・・とにかく  
庄屋さんが兼業で忙しい、今日は禰宜・・・

☆ **初午や柳はみどり小豆飯** 也有

これは、目には青葉山ほととぎす・・・  
と同様に季語の羅列で描いたものですね。

高橋 成る程そういう事なのですね。次の句は、

☆ **極楽の道抄どらぬ彼岸哉** 圭虫

季語は春の「彼岸」ですね。  
彼岸とは生死の海の向こう側にある死後の  
終局・理想・悟りの世界の事であり、また、  
春分・秋分の日を中日として、その前後の  
七日間のことですね。

会長も次のような哀感が透ける句をお詠みです  
ね。

★ **村いちばんの美人も彼岸墓の中** 健

両方の句のご説明お願いしていいですか？

会長 ☆ **極楽の道抄どらぬ彼岸哉** 圭虫

地獄に引き戻されるてんでなかなか  
極楽に行けないんでしょう。  
うっかりすると極楽をすべり落ちたる  
地獄かな ですね。

★ **村いちばんの美人も彼岸墓の中**

これは 手の届かぬほどの美人も  
結局は墓の中に・・・墓地で美人の墓を  
見て詠んだものとしましようか

高橋 「しましようか」って、お墓を見ても美人かどうか分からないわけですから・・・これは会長の何らかの思い出に繋がる句という事になりますね。（笑い）  
では、次の句に！「草餅」ですよ。会長も

★縁談のまとまる気配草の餅 健

という素敵な句をお詠みになっていますが、

☆おらが世やそこらの草も餅になる 一茶

と、百八年前に一茶もいかにも一茶らしい句を詠んでいますよ。  
ご説明下さいね。

会長 ☆おらが世やそこらの草も餅になる 一茶

そういう世の中を賛美していますね。  
餅屋で 草餅を買う必要はないわけですよ。  
拙句も解説しておきましょう。  
50年ほど前まで・・・縁談は男同士が決めてましたね。  
女衆は厨で様子を窺っている。  
縁談が纏ったと見るや 草餅を盆に山盛りにして 出す。そういう風景を、これは実景ですよ。

高橋 えっ！草餅にそんな使い方が・・・次の句は

☆菊根分小便したき泥手哉 鬼骨

菊は春三月頃根分けして苗を作るのですね。  
会長は「滑稽を読み解くⅢの結論で出来事をそのまま描いていてもそこに詩がある滑稽がある」との素敵な結論を導かれています、この句など正にその通り・・・もっとも情景は面白く浮かんで来ますが、でも、あまり上等な詩とは・・・（笑い）

会長 ☆ **菊根分小便したき泥手哉** 鬼骨  
菊根分・・・なにごととも熱中していると  
用足しを忘れて・・・拳句に我慢して  
もう堪えられないというときに泥の手に  
気づいたということですね。

高橋 次の季語は「接木」です。接木は根のある台木に  
他の芽や枝などを接いで品質の改良をはかる方法  
ですね。現在でも広く行われている様ですが、次  
の数句ご説明下さいね。

- ☆ **此株に何を接いだらよからうか** 格堂
- ☆ **此梅を接いだる和尚今在らず** 稲青
- ☆ **接木して桃を李にするのなんの** 紅緑
- ☆ **柿接ぐか猿蟹軍記の起り哉** 紅緑

会長 ☆ **此株に何を接いだらよからうか** 格堂  
滑稽句の方法に「話ことばをそのまま書く」  
があります。

拙句に

★ **かき氷どの部分から崩さうか**  
がありますが・・・。

☆ **此梅を接いだる和尚今在らず** 稲青  
これは「梅」の句ですね。  
見事に咲かせて・・・  
その和尚は死んでしまった・・・といこと  
です。

☆ **接木して桃を李にするのなんの** 紅緑  
するのなんの・・・喧々囂々という景が  
見えてきますね。

☆ **柿接ぐか猿蟹軍記の起り哉** 紅緑

あれは 柿の種を拾うのが始まりでした  
そのもっと前は柿を接いで実がついて・  
ということですね。  
紅緑は柿を接ぐという作業にモノゴトの因縁  
を  
想像して楽しんでいますね。

高橋 成る程！  
柿を接いだ時から猿蟹合戦の定めは決まっていた  
わけですね。  
次の句は「雛」ですよ。  
昔は雛壇を飾るのが本当に楽しみで・・・でも娘が  
大きくなると、お雛様の出し入れも億劫になり、  
つい仕舞いっきりにして「お雛様を泣かせた  
り」、逆に飾り放しで「嫁入りが遅れる」と言わ  
れたり・・・師の句にも雛を詠まれて

- ★ あらそへる男雛女雛のみぎひだり 健
- ★ 隠し事あらむ御殿のひひなにも 健
- ★ 土ひひな美男美女にはあらねども 健

等の句がありましたね。  
それでは、百八年前の滑稽句に参ります  
ね。 ご説明下さいね。

- ☆ 雛の日や蔵から都遷しけり 也有
- ☆ 持たすれば雛をなむる小供哉 一茶
- ☆ 古雛の眠たさうなる眼元して 鳴雪
- ☆ 一年や虫糞拂ふ雛の衣 鳴雪
- ☆ 遠くして近きは雛と鼠かな 紅緑
- ☆ 雛を見に行けば婆アが出たりけり 紅緑

会長 ☆ 雛の日や蔵から都遷しけり 也有  
大きな御殿造りの雛飾りでしょうね

☆ 持たすれば雛をなむる小供哉 一茶  
小さな子が持ちたがるので手渡したところ  
しゃぶってしまった・・・食べることにのみ  
関心のある幼な児という可笑しさですね。

☆ 古雛の眠たさうなる眼元して 鳴雪  
切れ長の眼はときに眠たそうに見えますね。

☆ **一年や虫糞拂ふ雛の衣** 鳴雪

雛・・・の美しいイメージを虫糞で裏切っていますね。そこが可笑しい。

☆ **遠くして近きは雛と鼠かな** 紅緑

いつの間に鼠は雛を齧るのか・・・  
遠くて近きは男女の仲・・・を雛と鼠に当てはめて楽しんでいますね。

☆ **雛を見に行けば婆アが出たりけり** 紅緑

可愛い雛を見せてもらいに行ったところ・・・  
婆さんが出てきましたよ。  
と おどけていっていますね。

高橋 ありがとうございます。

次の季語は「曲水」ですよ。

庭園や山麓に曲がり流れる水路を作り、上流からながされる杯が自分の前を通り過ぎないうちに詩歌を作り杯を取り上げお酒を飲み次へ流す貴族や文化人の間で流行した宴遊が「曲水の宴」ですね。

今でも後樂園（岡山・日本三大公園のひとつ）などで再現され多くの見物人を集めているようですよ。

☆ **曲水や下手なる歌を仕り** 虚子

会長 ☆ **曲水や下手なる歌を仕り** 虚子

下手なる歌を仕り・・・として曲水に同情している。虚子は自作を含めて曲水の宴に出すような句はできませんが・・・と挨拶をしているわけです。

高橋 次の季語は「出代」ですよ。「でがわり」・・・昔、奉公人が雇い期間を終えて入れ替わる事をいうそうですが、沢山の句が詠まれてますね。

ご説明下さいね。

- ☆ 出代や尻の太りも米の飯 太祇
- ☆ 出代のさっさと去んでしまひけり 錦浦
- ☆ 出代のよく嘘をつく女哉 竹の門
- ☆ 出代や柳は緑足袋は紺 一寸
- ☆ 出代の横向きがちや面の瘤 紅緑
- ☆ 出代や前の男のかくしもの 紅緑

会長 ☆ 出代や尻の太りも米の飯 太祇  
待遇がよかったんでしょうね。  
奉公の間、何度となく 米の飯を  
食わせたから 尻も太ったよと

☆ 出代のさっさと去んでしまひけり 錦浦  
名残を惜しみしばらくは話に花を咲かせ  
たいと思っていたのでしよう 年季あけと  
なればドライにハイサヨウナラに侘しさ  
を感じているのです。

☆ 出代のよく嘘をつく女哉 竹の門  
よく嘘をつく女だったとしかし、今は責める  
こともせず、年季あけで安堵の気持と  
許していいという気持が出ています。

☆ 出代や柳は緑足袋は紺 一寸  
紺色の足袋を履いて年季あけの暇乞いを  
るのでしょうか、これも色彩の鮮やかな  
句ですね。

☆ 出代の横向きがちや面の瘤 紅緑  
叱られて、殴られて瘤ができています。  
主人は丁寧な挨拶を期待しているのでは  
しょうが奉公人は不貞腐れて横向きになっ  
ているのです。

☆ 出代や前の男のかくしもの 紅緑  
新しく奉公することになって 部屋を  
与えられて、その部屋のどこかに  
隠し物を見つけたのです。まあ大方は  
良からぬもので・・通販のDVDとかでしょ

う。

高橋 有難うございます。  
句に詠まれた行間の雰囲気とか、色彩まで頭に描いてみる・・・句の味わい方まで分る素晴らしいご解説ですね。  
お陰様で今回も興味深く百八年前の滑稽句がよく理解出来ました。

最後に今回ご解説戴いた三十五句余りの古の句の中から会長のお好きな数句に七七を付けて一層滑稽なものにして戴けたらと思います。  
よろしくお願い致します。（笑い）

- 会長
- 虚病してすえられにけり二日灸 鱸江
  - 効果てきめん体罰の灸
  
  - 門口やはいる處を水祝 子規
  - 口でごめんとびしょぬれにする
  
  - 古雛の眠たさうなる眼元して 鳴雪
  - 百年余立ちつばなしで
  
  - 達磨には頭へやせん二日灸 紅緑
  - 睨みつけるに眼のなき達磨
  
  - 一年や虫糞拂ふ雛の衣 鳴雪
  - 色直ししてすまし顔なる
  
  - 遠くして近きは雛と鼠かな 紅緑
  - とかくこの世の男女の仲も

(2010年3月号)